

V. 特記事項

本学では、数年前から自己点検・評価委員会及び全学教職員会議をほぼ毎月開催し、PDCAサイクルが定着している。コロナ禍により令和2年度は全学教職員会議の開催が減ったものの、本学の教育理念である「社会事象を的確に捉え、分析し、解決する能力を備えた心豊かな人材の育成」に向けた3学部4学科からのアプローチが明確化されたことにより、本報告書は大勢の教職員による執筆が可能となった。全学的な取り組みについては、以下の3つの特色を見出すことができる。

1. 「地域と呼吸する大学」

本学は、法学部、経済学部、経営学部を擁する、県下唯一の社会科学に特化した大学であり、岡山県の中核都市である岡山市の中心部に位置している。こうした本学の特色と地の利を活かし、県内10市町村と包括連携協定を締結している。これにより、積極的な「フィールドスタディ」の実施が可能となり、学生たちは地域に関わりながら実践力を身に付けることができる。また平成29(2017)年度から令和元(2019)年度にかけて、大学と地域の協同による「寄り添い型研究」事業に取り組んだ。その研究成果をまとめて、令和2(2020)年度には本事業3冊目となる『「寄り添い型研究」による地域価値の向上』を刊行した。

このほか、法学部の「政治を考える」では政治家をはじめとした地方行政関係者、経営学部の「岡山経営者論」では地元企業のトップをゲストに招き、座学においても学生が理論と実態の両面を学ぶ機会を設けている。こうした実学重視の教育により、大学と社会のギャップを埋めることは、「社会事象を的確に捉え、分析し、解決する能力を備えた心豊かな人材の育成」に大きく寄与し、「社会で必要な力」を養成するための学習体制が構築されている。

2. 学際的な学習プログラム

本学は3学部4学科がそれぞれの立場から「社会事象をとらえる目、問題解決を図る力を育む」ことを使命としているが、社会事象の問題解決には多面的・複眼的な分析能力を必要とする。このため学際的な学びを可能にする新しい学習体制の構築が進んでいる点に、未来志向的な本学の特色を見出すことができる。他学部も履修可能な科目を開講しているほか、全学生を対象として「金融総合教育プログラム」を開講している。さらに、数理・データサイエンス・AIを活用できる能力を育成する「データサイエンス・プログラム」の開講を検討している。

3. 国際化への対応

早くからカリキュラムに中国語を取り入れたほか、平成9(1997)年より大連外国語大学をはじめとした50余の中国の大学と友好提携を結び、アジア圏を中心に多数の留学生を受け入れている。平成19(2007)年には、日本で8番目の「孔子学院」を設立した。将来は英語圏の学生も積極的に受け入れたいと考えている。

日本人学生に対しては、留学を卒業単位に認定することで留学を促し、中国、韓国のほか英語圏の大学へ派遣している。

上記をはじめとする人材育成並びにブランディング戦略の成果の一つとして、本学は今年度、大学院進学率において8年連続日本一となっている。